

## 令和元年度第1回総合教育会議会議録

令和元年塩尻市教育委員会第1回総合教育会議が、令和元年9月26日、午後3時00分、塩尻総合文化センター302多目的室に招集された。

### 会議日程

#### 1 開会

#### 2 市長あいさつ

#### 3 教育長あいさつ

#### 4 議事

議事第1号 教育の条件整備等について

(1) 電子メディア機器等の利用について

(2) 平出博物館の現状と課題<非公開>

#### 5 その他

#### 6 閉会

#### ○ 出席者

市長	小口利幸				
教育長	赤羽高志	教育長職務代理者	小澤嘉和		
委員	嶋崎栄子	委員	石井勉		
委員	小林夕香				

#### ○ 欠席者

なし

#### ○ 説明のため出席した者

こども教育部長	大野田一雄	市民交流センター・生涯学習部長	赤津光晴		
こども教育部次長 (教育総務課長)	太田文和	市民交流センター・生涯学習部次長(社会教育課長)	胡桃慶三		
こども課長	花岡昇	平出博物館長	小松学		
家庭支援課長	植野敦司	スポーツ推進課長(新体育館建設建設プロジェクトリーダー)	田下高秋		
子育て支援センター所長	羽多野紀子	男女共同参画・若者サポート課長	嶋崎豊		
主任学校教育指導員	黒澤増博	交流支援課長	山崎浩明		
教育総務課指導主事	高橋和幸	図書館長	上條史生		

○ 事務局出席者  
教育企画係長

横山朝征

## 1 開会

**大野田こども教育部長** それでは定刻となりましたので、ただいまから令和元年度第1回総合教育会議を開会いたします。私は、本日の進行を務めますこども教育部長の大野田です。よろしくお願いします。

まず初めに、塩尻市小口利幸市長から御挨拶をお願いいたします。

## 2 市長あいさつ

**小口市長** 改めまして、こんにちは。小林さんは総合教育会議って初めてだっけ。

**小林委員** はい。

**小口市長** 石井さんは違うよね。

**石井委員** 私は2度目です。

**小口市長** そうだね。教育長は初めてだね。ということで、塩尻市みたいな小さい自治体の場合には、改めて総合教育会議なんていう形ではなくて、予算策定からあらゆるところで庁議、理事者会含めて教育長、出ていただいておりますので垣根はないと思いますけれども、大きな自治体の場合には、そんな自治体もあるようでございまして、総合教育会議も一つの教育委員会改革の位置づけかなということで御参加いただければいいと思いますので、よろしくお願いします。

きょうの二、三点テーマがあるようですね。それに加えて、これは余り大きなテーマでもないんで、できたらそろそろ広陵中学と西小のありようを、いつまでもプレハブにしておきたくないということは既に申し上げておりますが、具体的な研究に入っていただければ。こども教育部長はあと1年半ですね。その間にぜひ方向づけをして去っていただきたいと、こういう願いを込めて、教育長はついこの間就任いただいたばかりなので、いきなり難しい、難しくもないですね、課題かと思いますが、もともと桔梗小におられたということ、また石井さんは、小学校は洗馬ですか。

**石井委員** そうです。

**小口市長** こちらに住んでいたときは、中学は広陵ですか。

**石井委員** 西部中です。

**小口市長** そういような方から、小林さんは余り関係ないの。

**小林委員** 広陵中です。

**小口市長** 広陵中と丘中とか何とか、そういう問題は関係なかったの、人生において。

**小林委員** ちょうど子供たちが卒業した何年か後に広丘小学校が丘中と広陵中に分かれるというのもあるんですけど、郷原自体が桔梗小と広丘小学校に分かれて子供たちが行っていて。

**小口市長** それは今もそうだよ。

**小林委員** 全員が桔梗小に行くという話が出ていたのです。今の中学3年生になっている子たちから桔梗小のほうに全員が移るという話になっていたのですが、人口が増えたことによって頓挫したという形らしいです。

**小口市長** では、ある意味では関係、かなりあるんですね。

**小林委員** 孫の世代に関係があるかと。

**小口市長** そういう関係者がちょうど教育委員の間にいるので、より機は熟しているのかなという気

が勝手にしておりますので、ぜひその辺を。私はプレハブで子供たちが勉強することは嫌です。だけど今のプレハブっていいみたいなので、現場視察もせずに言うてはいけません。お母さんだからわかるか。でも東小はプレハブないもん。

**嶋崎委員** ないですね。しっかりエアコンも入っているというのは聞くので。

**小口市長** そうだと思いますし、また私の世代の何人かは、あんなの行政があのでアンケートどおり決めてよかったんじゃないのと、一回やめちゃったので禍根を残しているという、同級生は大体孫がその渦中にある世代でございまして、そんな意見も複数聞くような状況ですので、ぜひこれは私の今任期中に方向づけしたいと強く願っておりますので、ぜひお含みいただいて、そろそろソフトランディングがどんなこともいいんでしょうから、多種多様な意見があるのは当たり前ですからね。100人いれば150くらいの意見があるので、そんな議論を深めていただければと。これは今、この間聞いたら年に1回の総合教育会議だそうですけど、年に3回やってもらっても結構でございますので、それは明確なテーマさえあればということでございます。余分なことまで申し上げましたが、きょうはよろしくお願ひ申し上げます。

### 3 教育長あいさつ

**大野田子ども教育部長** 続きまして、教育長から御挨拶申し上げます。

**赤羽教育長** 本日は、お集まりいただきありがとうございます。資料もあります。さまざまところで意見交換できればいいかなと思いますので、ぜひよろしくお願ひします。以上です。

### 4 議 事

#### ○議事第1号 教育の条件整備等について

**大野田子ども教育部長** それでは、お手元の次第に従いまして議事に入ります。

議事第1号、教育の条件整備等についてを議題といたします。資料は次第の裏面をごらんください。事務局に説明を求めます。

**太田教育総務課長** よろしくお願ひします。教育総務課長の太田といたしますが、本日の教育の条件整備等についてでございます。趣旨でございますが、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第1項第1号の規定に基づき、教育を行うための諸条件の整備、その他市の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため、重点的に講ずべき施策について協議いただくものでございます。

#### (1) 電子メディア機器等の利用について

**太田教育総務課長** 2の協議内容、(1)でございます。電子メディア機器等の利用について、先だって市内の小中学校に電子メディア機器等に関するアンケートを実施しております。この内容について、情報教育担当指導主事から御説明申し上げます。

**高橋教育総務課指導主事** 情報教育担当の高橋と申します。よろしくお願ひします。資料について御説明させていただきます。塩尻市では以前からアニメ教材を利用して情報モラルの学習を授業の中に位置づけてやってまいりました。小学校では情報週間とか情報モラル週間というのを位置づけて全ての教員が授業をして、それを公開してきました。それから中学校では全ての1年生を対象に情報モラルの学習会を学年単位で行ってきたわけなんですけれども、ここへ来て急激にスマホの所有が拡大してきて、使用は本当に低年齢化してきています。それから課題がどうしても多様化してしまうところがあって、学校でも家庭でもこれ以上もっと情報モラル教育について必要性があるんじゃないかという声が高まってきています。一般的に外部から講演者を招いて学年全体とか学校全体

で話を聞くことがどうしても多かったんですけれども、外部講師の話を聞くのも大事だけでも、それだけでいいのか、本当に自分事になっているのかというところをトラブルが起きてから対症療法的に指導するのではなくて、実態を正確に把握した上で予防的・開発的に学習を進めたいという現場の先生方の意見を踏まえまして今回アンケート実施に至りました。

アンケート用紙の7ページでございます。昨年度塩筑校長会で抽出アンケートを実施したりとか、丘中学校さんのほうで佐久市のアンケートを参考に保護者のアンケートと一緒にクロス集計したりもしていたんですけれども、ことしは塩尻市を皮切りに塩筑校長会とも協力して、さらに松本市、佐久市、御代田町と同じアンケートを小3から中3まで全員実施しました。このようにA4裏表で1枚のみなので、問題数にしては10問です。マークシートで塗りつぶすだけなので15分程度で回答ができます。それから1、2年生の保護者に協力を求めて本来対象ではなかった1、2年生も一緒に1年生から6年生まで学年を通して経過を見た学校も何校かありました。それから無記名にしています。使い過ぎている子とか、トラブルのあった子を見つけてその子を指導するためのアンケートではなくて、これから先の啓発のために実施しているアンケートですので無記名で実施しました。

塩尻市の傾向について1ページからざっと御説明させていただきます。3,700人余りから回答が集まりまして、まず1番が、自分が使えるスマホについて、赤いグラフは自分の専用スマホになります。それから黄色いものが保護者との共用スマホになります。専用で持っているのは小6で27%、それから中3では52%なんですけど、長野県は傾向として専用での所有率がとても低くて、全国で45番目46番目あたりなんです。ですが、特徴として共用のものがものすごく多くて、共用と合わせると全国平均あたりになります。保護者との共用ならいいんですけども、制限のないお下がりをもって、そのお下がりを見えなくて使ってしまうことがやはりトラブルリスクにつながって、そこはちょっと気をつけたいところだと思っています。それから高校に行ったらスマホという文化がどうしても今まであったんですけれども、最近は中学に行ったらスマホという感じになりつつもあります。グラフの中にもあるように、中学1年生になると赤が黄色を上回る、共用を上回るということは、やはり中1あたり、小6あたりの指導をより大切にしていきたいと思います。

それから右下のスマホ・パソコン等でよく使うものは何かというところで、YouTubeなどの動画が圧倒的に多いです。テレビと違っていつでも好きなものを好きなだけ見れるということから依存につながってしまう傾向にあります。発信している子供も実際にいますので、発信することで服装だったり背景だったり、そういったところから個人が特定されてトラブルにつながることもあります。逆に青いグラフは勉強です。有効的な使い方を学んでいるし、学校での利活用が進んでいることもあって、勉強のグラフが伸びてきているのはちょっとありがたいところです。それから紫色ですけれども、調べ物に使っています。疑問を感じたらすぐに調べる、さらに知りたければ書籍に当たるということで、字が小さくて申しわけないんですけども、疑問を感じたらスピーディに調べる、でももっと調べたかったら書籍に当たって調べてくるみたいな学習スタイルが少しできているような気もするんです。

使用時間なんですけれども、2ページの4番、休日と平日の使用時間の目安が出ているんですけども、大体平日の2倍が休日ぐらいです。全体で平均すると使いすぎているように見えるんですけども、実は右側に行けば行くほど多い。休日の10時間とか平均の6時間といった心配な子たちがいます。

それから、右下のスマホを使って生活は変わったかというところで、赤い色がよく目立つんですけど、赤い色は使用時間が長くなったことを自覚している子供が多いです。その右側のオレンジが、

使用時間が長くなり勉強時間が短くなり、さらに黄色は睡眠時間が短くなる。というのは、学年が上がるにつれて黄色、オレンジが多くなって、中3が本当に顕著なんですけれども、使用時間を長くすることで睡眠と勉強時間、さらに家族とかかわる時間を減らしていると子供たちは自覚しています。

それから左下、6番に行くと、困ったこと、心配なことというところで、子供たち、小学生のほうですけれども、ゲームへの課金についてもう既に困っていると心配している。ゲームは今、無料でダウンロードしているゲームでも、先に進むために、もっと強くなるために、アイテムを取るために課金をしなきゃいけないシステムになっていて、コンビニに行ってカードを買って番号や記号をコンピューターに入力するとそれが課金になって、実はそれが保護者の見ていないところ、知らないところで行われているという実態も実際あります。それから中学校のほうでは、勉強や寝る時間にラインやメールをやってくるということで、来て困る、あるいはこれから心配だということもあります。

6ページにまた飛びます。6ページに全体の集計結果が4市町で合わせて信毎の記事になりましたけれども、2万人を超えるデータはあくまで全体の傾向を捉えるものなので、塩尻市の結果をそのまま捉えているかというところではなかつたりするんですけれども、実はアンケート結果を入力すると、こちらのようない集計表ができます。塩尻市でこれ1枚の集計表です。でも学校ごとに同じものが、集計表ができます。それから学年ごとにも同じものができて、学級ごとにも同じものができて、やはり大事なものは学校単位、学年単位、学級単位でそれぞれ考察していくことをお願いしているんですけど、そしてトラブルや依存にならないために一人一人が考えるために指導に役立てるということをお願いしています。それから学校から家庭とか地域とかへ結果を発信する、あるいは啓発することを目的としているので、このデータについては一切隠さず公表しています。

課題は大きく3つわかっていることは、やはり子供たちには依存傾向による健康被害や発達に及ぼす影響、学力も含めて影響が一つの課題です。それから子供たちのコミュニケーションの行き違いによるネットいじめにつながるようなトラブル、それから社会的犯罪に巻き込まれるようなトラブル、この3つは大きな課題になっています。その子供たちは、アンケート結果からその危険性をおおよそ自覚していることがわかります。本来楽しく便利に使う電子メディアなんですけれども、それを安全に使うためにこれからどの段階で子供たちに考えさせるのか、どの段階で大人と一緒に考えていくのかというのをまた考えていきたいと思っています。教師や保護者を初めとして地域の皆さんとか、今日こうして議題に取り上げていただいて社会全体で考えていく、本当にありがたいことだと思っています。さらなる御意見をいただけたら幸いです。

さっきの5ページのところです。信毎に出た記事が中学校3年生の国語の問題、学習シートになって、信毎が加工してつくったものがあります。これは各学校にメールで配信されていて、中学校3年生が取り組んでいるかもしれないです。こういうふうな新たな啓発の形式というのがありましたので御紹介いたします。以上です。

**大野田こども教育部長** ただいま事務局から説明がございましたけれども、市長また教育委員の皆様から御意見等をいただきたいと思います。皆様、電子メディア機器等の利用につきまして御意見をお願いいたします。なお、20分くらいを目標としておりますのでよろしくお願ひします。

**小林委員** 人権擁護委員のほうでスマホ・携帯安全教室というのをdocomoさんと一緒にやっていたことがあるのです。それで5年ほど前から長野県のほうで始まってまして、一昨年は東小学校の6年生を対象に、あと6年生と保護者の一部分、来てくださった保護者が20名ぐらいいらっしゃったので、その保護者向けにdocomoさんの講師の方が来て授業をされました。それとあと今年の春に広陵中学校の全生徒、3学年全校を対象にやはり授業がありました。

外部講師が来て勉強というのだけでは不足だとは思いますが、かなり現在問題になっている、例えば中学生に対しては出会い系サイトで連絡を取り合ってしまったら、その後車に乗せられちゃう場面でカットがかかるみたいな、そういうちょっと危険な場面も中学生に見せる、そういうのもありまして、衝撃的ではあるんですけども現実的に起きていることなので、怖いっていうふうに子供たちに思わせるような、そういうところまで踏み込んで実際の映像を見せていただいたりしています。小学生はやはりゲームで課金をしてしまっていて、親に言えなくてこまるよねとか、そういうような子供とのやりとりをしながら講師の方がお話をしてくださっているの、一方的に外部講師が来て話すというよりは、子供とのやり取りをしながら、かけ合いをしながらやっているの、結構インパクトに残るような授業だったかなと思います。正味1時間くらいだったと思うのですが、そういう形で外部講師が授業をやっています。

それは直接学校のほうから法務局のほうに希望する日時を2カ月ほど前に申込用紙を出していただいて、docomoさんと学校側と日程調整などをしていただいて、それで日程が決まってきて授業を受けるという出前出張講座です。docomoさんのほうも対象者によって内容もバラエティで小学生と中学生、保護者で結構内容が違っていました。使い方についてお話をし、メリットもあるけれども、こういう使い方をすると友達ともトラブルが起きるよねとか、そういうことをわかりやすく説明をしてくださっていました。今ここにあったように、使うことによってどうなっているかっていう、こういうお話ではなくて、実際の使い方についての話ということで、子供たちも結構顔色を変えながらお話を聞いていたという印象がございいます。

なので、日程を合わせてやるというのは難しいことなのかもしれないんですけども、是非中学生でしたら3年に一度くらいそういう授業があってもいいのかなと思います。また東小学校のほうでは一度docomoさんで講義をしていただいた後に人権擁護委員が入って、ちょっと時間があるとき、朝の読書の時間とか、そういうときにもこまめに、そういう人権のビデオがあるんですね。それを見せて、こういうところだけ守ってねとかいうお話をしているという話を聞きました。ボランティアでそういう方が入るといってもできるのかなと思いますし、外部から入るとちょっと目線が変わっていいのかなという感想は持っております。以上です。

**石井委員** それでは、お願いいたします。お話聞いて、もうデジタルものは生活に欠かせないというのははっきりわかってくるかと思えます。お話があったように、使い方あるいはインターネットの成り立ちのようなもの、これは常識として踏まえておくべきものかなと思います。その上でモラルですとかあるいは自制心、危険回避、自己防衛といった自分でできることをきちんと学んで身につけていく、これはもう不可欠なことになるのかなというように感じております。もうあって当たり前の中ではさまざまなこういうプログラムがあるかと思えますので、用途に合わせて活用する場面はもっともっとふえてきて当然かなと思うところが一つと、これだけ日ごろの生活になじんでくると、これなしでは生活ができなくなるだろうなというふうに心配事になってくると感じるわけです。先だっては災害のあったときに通信網が破壊されてどこで誰が何をやっているのか突然わからなくなったということで、対応のしようがないというような報道も見ました。それだけ今、人とのつながり方というのがこういったデジタル機器に頼っており、それがかなって当たり前だという話ですよね。これが子供のころからということになると、もはやないと何もできないというような危険性も出てくるかなと思います。ですので、デジタルプラスアナログとかどうかわかりませんが、それがなくても対応できるような、そういった生き方も同時進行で教えていく、身につけていくべきかなと感じるところではあります。今まではそちらのほうの方が当たり前だったわけですが、残念ながらそれも逆転というか、さま変わりしてくるのも避けられないと思いますので、昔はそうだったという話ではなくて、こういったやり方も身につけておくべきだということへ

ひ生かして行ってほしいなというふうに感じております。

**小澤教育長職務代理者** 自分の足元を見れば、我が孫もスマホの中毒、大人も中毒。また、汽車に乗って長野まで行けば、汽車に乗った者は大体みんなスマホと対面している。本を読んでいる人はまれ。だからいかに一億総スマホ化しているかということがよくわかる。私はスマホがないものだから、その楽しさがわかりません。けれども、やってみれば多分夢中になって課金が気になる部類に入るだろうと思います。

そうしたときに、やっちゃいけない、やっちゃいけないという観点から振り返ったときに、私が思い出すのは、自分が小さいころ東京オリンピックでテレビがはやりでした。月光仮面を見たい、あれも見たい、見たくて見たくて親の目を盗んで見た。あげくの果ては、友達の家を回って歩いて、隠れて見ていた。現代、同じ事がテレビにかわってスマホになっているだけのこと。ここら辺はイタチごっこでどうしようもないです。

それで、そのときに自分で自分のブレーキをかけなくちゃいけないという指導主事の話だけれど、そのとおり。だけれど、あのときのブレーキというのは、自分ではなかった。やっぱり親なんだ。親に怒られる。親にお仕置きされる。これが恐ろしい。でも、今は親がブレーキ役になっていない。これはどこでも言われている。親自身が中毒だし、スマホを見させておけば楽しめということ。子供とかかわるより働く時間のほうが大事。もうこういう環境だから、どうしようもないってことはよくわかる。先ほど二極化という話がありました。授業の面でも運動でも二極化があらわれてきている。やはり、授業がわかる子供は、授業のほうへぐっとシフトしてくる。わからない子供は、楽しみをほかのところへ求めていく。それがスマホです。それで、学校を回らせてもらう中、本当にわからない子供をわからせてもらえるような努力をしてもらわなくちゃいけない、それからスマホにかかわる楽しみ、夢中になれる、こういうものを見つける手立て、支援、助けをしてくださないと、こんなお願いをしているわけです。自分のことを考えても、楽しいほうがいいからね。だから、一つの手立てとしては楽しみを見つける、余った時間を楽しむ、こういうような世界を学校現場は築いていきたいなと、そんなことを願っています。以上です。

**大野田子ども教育部長** どうぞ、市長との懇談ですので、御自由に御発言いただければと思います。

**小口市長** 難しすぎて意見も言えないくらいですね。日本だけじゃないですね。世界ですよ。これ否定したってできっこないんで、今あるところから極力何を変えていくべきかということ議論するのは現実的であるし、やったところで無力かもしれないけど。だけれどやらないわけにいかない、私たちはそういう立場にある人間ですから。確かに今、小澤委員がおっしゃったように、おもしろいほうに流れるのは、これは人間の本能なので、それをとめるなんてことは言うべきじゃないし、できないし、無駄な努力なので、親の力がまだ届く世代のうちにほんの1ミリ変えることが10年後には10ミリになるんでしょうから、それをやることしか行政にできることはない、悲しいけど現実だと思いますね。今、小林さんが言った外部の違う切り口からのテーマもやらないよりやったほうが良いと思います。そういうことの積み重ねしかないのかな。薬物乱用はライオンズクラブも一つのテーマとして塩中へ行ったり、いろんなところでやってくれているけど、あれだってやらないよりやったほうが良いだけであって、あれを聞いた人が薬物は悪いからやらないなんてことはほとんどないですよ。そのデータを知った上で周りのサポート、親の半強制力等が少しでも二歩動くような世界なんだね。まともな道に戻してくれることに期待するしかないのかなと私は常日ごろから思っていますね。私は2個持つ嫌だからガラケーを持っただけで、スマホはやるとおもしろいし、確かに時間を忘れますよね。一応は常識はあるつもりの人間なので、その人間でも正直にこれ楽しいからそっちに費やす時間が多くなって、人とのコミュニケーションが少なくなるなんて十分わかるんでね。それをもっと、まだ人生経験少ない子にそうじゃないよなんて言えようそに決ま

っているし、困ったもんですな。回答になりませんが。

**赤羽教育長** 例えば、今、人間が亡くなるとか死ぬとか、主なものにがんというものがあるんですが、昔は子供たちそういう勉強をしなかったんですけど、保健体育で教科書の中に3分の1とか4分の1はそういうがんとか、その原因だとか、どうなっていくんだとか、そういうことを数年前からしっかり教科書に載って、やります。ですから今、市長さんが言われたみたいに、正しい知識を知っているとか、子供って知らないことを知りたいってとか、そういう本能がありますので、ネットで調べるっていうのも、私も子供のころからいろいろな興味関心高いので、それは、一つだと思いますので、やはり正しいってとか、そういうことは子供の中に知識として入れてやらなければいけないということをととも思います。それと小中が終わって、今度は高校生になるときに、指導主事のほうから高校の使用度みたいところで情報を流してもらってもいいですか。

**高橋教育総務課指導主事** 市内の高等学校のほうに調査をさせていただいて、今はどんなふうスマホとかを学習利用、教育利用をしているかっていうことをお聞きしたんですけど、まだまだ、都市大塩尻高校さん、40人の3セット入っていて学習に使っているようですが、公立高校はなかなか入らないんだけど、特色のある志学館高校さんなんかは少しずつ入ってきて、使っています。ただ、これから情報科っていう授業が完全必修化に3年後になるので、そうすると大学入試科目になったりする関係で、最近は学習に使うことは避けられなくなっているような気がしています。

**赤羽教育長** わかりました。それで、聞いた中で県ヶ丘が、昨年度、探究科でアイパッドを使って事業をやるっていうこと。だけど、ことしは1年生全員がアイパッドを購入するというか、それを使って有効活用するというか、ほとんどそういう学校はまだないんですが、流れるにはやはり、使いこなしていくっていうか、そちらのほうの方が大事なかなっていう方向には向かっています。

**小澤教育長職務代理者** 1点聞いていいですか。中学とか高校でタブレットやアイパッドっていうのは、どういうふうに使っているのか。思うに、情報を早く検索して調べる、ぱっと人がつくったやつを入手する。そのツールだと思っているが。

**高橋教育総務課指導主事** 一番は調べ学習。

**小澤教育長職務代理者** そこでしょう。

**高橋教育総務課指導主事** 鍵のかかっているパソコン室へみんなで行って、調べ学習するっていうのは現実的ではないので、すぐ机の上に情報端末があって、すぐ調べられる。

**小澤教育長職務代理者** ですね。それ言うと、自身もちょっとこのごろ疑問に思えるです。学校の授業を回ってみて。市長さんがいるので言いづらいけど、いつもの教育委員会だと思って話しますが、学校の授業が非常に単純化している。マニュアル化している。パターン化している。感動がないんです。ワクワク、ドキドキ、ハラハラ、エキサイティング、そういう場面が少なくなっている。さあ、調べましょう、開いて検索、ぱっ、あ、わかった、わかった。頭ではわかっているけれども、知識として血肉として、体験が体の中に蓄積されているか。このことをうんと危惧しているんです。先生方もそういうふうには検索で利用している。私は、教師の一番大事な資質の一つは、子供が、大人が発する言葉の裏を読む、あいつ、こういうこと言った、その根拠はと。何で、ああいうことを言っているんだろうと反すうしてみる、押し返す。この力量というのが教師にとって、最大の資質の一つだと思っています。パターン化した授業の中では、いわゆる教師力っていうのが培われていないんじゃないかなと危惧しているものです。高橋指導主事さん、うまくそこら辺のところを指導してください。

**高橋教育総務課指導主事** わかりました。

**大野田子ども教育部長** まだお話しされたいことあるかと思いますが、どうしてもっていう方がいらっしやったら。よろしいですか。



**小林委員** 先ほど、小澤教育長職務代理者からブレーキをかけるのは親って話がありました。私もそのとおりだと思うのです。そのブレーキは思春期になった子供にかけるのってとっても難しいんですよ。いきなりかけるっていうのは、小さいときから練習していないと、親は子供にブレーキかけられないと思いますよ。それで、私初めて6月の定例会に出させていただいたときに、たしか、市のほうでスマホの使用については、年長さんの保護者に対してやりますっていうお話が、確かありました。

そのとき、疑問に思ったんですけど、私、初参加だったので何も言えなかったんですが、やはり、5歳では遅いと思うんですよ、親がブレーキかけてあげるのって。子どもは、使いたい放題、もう上手に1歳半くらいでも自分で見たい動画をちゃんと検索して見ているので、もう2歳までに親が規制をする、ブレーキをかけてあげないと、子供はスマホってそういうものだって認識します。親も使っているからわかると思うのですけれど、本当にブレーキがきかなくなると思うんですよ。

なので、石井委員がおっしゃったように、使わないっていうことはできないので、ただ、ブレーキをかけるのが親ってというのは、親がやはり小さいときから、見過ぎだよとか、目が悪くなるよとか、もう御飯の時間だよとか、そういうしつけという部分と重なるのですけれども、そういうことをやっていかなければ、スマホのことでいきなり親子げんかみたいになると悲惨だと思います。やはりもっと小さいときから、5歳ではなく2歳のときから、こういう視力とか学力低下と関係ありますということをはっきり親御さんにお伝えして、早い時期からスマホの使い方を親のほうに示していってあげるといったことが必要になるのではないかと思います。

その後、どういうふう子供と一緒に使っていくかっていうのは、そういうブレーキをかけられる親であれば、提案して、子供に約束するとか折り合いをつけるっていう、そういうことができると思うのです。まずブレーキをかけるっていうこと自体ができていない親は、折り合いも多分つけられないし、子供とそういう話し合いを持つということも怖くてできないとか、そういう親子関係になっていくと思うんですよ。ですので早い時期から、スマホに関しては親がブレーキをかけるっていうことを伝えていくことを、市のほうで伝えていったほうがいいのではないかと考えて、この間、5歳とおっしゃったのは遅いって思っていました。一つ提案させていただきたいと思います。

**大野田子ども教育部長** ありがとうございます。それでは、もう時間の関係もございますので、次の項目に進みたいと思います。

## (2) 平出博物館の現状と課題<非公開>

**大野田子ども教育部長** (2) 平出博物館の現状と課題でございますが、この件につきましては、意思決定前の情報を扱うために、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4、第6項の規定に基づきまして、非公開にて行いたいと思いますが、皆様よろしいでしょうか。

〔「いいです」の声あり〕

**大野田子ども教育部長** それでは、非公開といたしますので、傍聴人の皆さんは御退席をお願いいたします。

## <非公開部分削除>

## 5 その他

**大野田子ども教育部長** そのほか、皆様から教育関係分野につきまして、情報を共有認識しておく必要があるものなどがもしありましたら、お話頂戴できればと思いますが、いかがでございましょう

か。

**小澤教育長職務代理者** 1点いいですか。市長さん、先ほどの教育委員会の中で、野球場使用が議題となりました。高校生以上の者が硬球を使うのに使用に耐えられない、制限をするということで賛同しました。私たちが小さいときには、野っ原であった、あそこを市が借り上げて球場をつくりました。あのころ県下でトップだったと思います。だから非常に鼻高々だった。しかし、今行ってみれば、もう住宅地になって危ない。それから老朽化して、公式試合には耐えられないような施設になってきた。そこで、野球ではなくてほかの競技、種類、種目、例えばサッカーとか、そういうものにそろそろ転用というか、変えていく時期に来ているのではないかと、あの球場をめぐるながら考えました。また、頭の中に入れておいていただければありがたいなと思いますが。

**小口市長** そうだね。この間、高田宮杯で松本の市営球場、あれは元県営球場なんだったね。

**小澤教育長職務代理者** 昔、そうです。

**小口市長** そう、立派だね。

**小澤教育長職務代理者** 野球をする場は、塩尻市もそこそこにいろいろあるんです。

**小口市長** だから塩尻もなくなって、松本のあそこを使わせてもらえばいいかなとも思うんだけどね。

**小澤教育長職務代理者** 私もそう思います。

**小口市長** 稼働率、高くないんだってね、あれ。それで市がまたつくるっていうから、ちょっとびっくりしている。

**小澤教育長職務代理者** 都市大の野球場は、すごく整備されました。ネットも30メートルぐらいある。

**小口市長** この間オープンしたやつね。

**小澤教育長職務代理者** やはり、ああいうふうになっていかなければ、もう通用しないと思う。

**小口市長** 市営野球場を硬式で使っているのが、特定高校の部活に使っているだけだということだけど、もう廃止決定ということ。

**胡桃市民交流センター・生涯学習部次長（社会教育課長）** 本日の教育委員会で、体育施設条例に基づきまして、決定をいただいております。

**小口市長** 決定したというのが、きょう時点での正確なデータなんだね。

やむを得ないかもしれないね、特定高校のためにあるレベルなら。難しい話題だね。では、高出の野球場は廃止しちゃって、小坂田のところのを、別にサッカーで絶対必要なものでもないから、あそこを野球場にしちゃうという手もあるしね。

**小澤教育長職務代理者** チェンジしたっていい。

**小口市長** 今のところは売ってしまえばいい。高出の、市街化だから、すぐ売れるでしょう。

**小澤教育長職務代理者** そうするとまた、通学区の問題が出てくる。

**大野田子ども教育部長** ありがとうございます。そのほかよろしいですかね。事務局のほうから何かございますか。よろしいですか。ありがとうございます。

## 6 閉会

**大野田子ども教育部長** それでは、本日の会議事項につきましては、全て終了いたしましたので、これにて閉会とさせていただきます。どうもありがとうございました。

○ 午後4時11分に閉会する  
以上

令和元年10月25日

署 名

市 長

---

教 育 長

---

同職務代理者

---

委 員

---

委 員

---

委 員

---

記 録 職 員 教 育 総 務 課  
教 育 企 画 係 長

---